2006(平成18)12.15

漢詩神奈川

創刊号

神奈川県漢詩連盟
横浜市旭区中沢
3－39－9
電話045-361-2033
FAX045-361-2033
発行人 中山　清
編集人 田原 健一

神奈川県漢詩連盟　誕生！
会員82名にてスタート

神奈川県漢詩連盟の設立総会が、平成十八年十月十四日（土）、横浜市中区の横浜技能文化会館八階の大会議室で開催され、会員、ご来賓の方々を含め約60名のご出席を頂きました。

経過報告の後、規約案・役員人事案・今後の運営等々についての説明がされ、原案通り承認されて正式に発足いたしました。

設立第一期の役員は次の通り選出されました。

顧　問　石川 忠久（岳堂）　窪寺 啓（貫道）
　　浅岡 清明（清州）
会　長　中山 清（葦舟）
副会長　岡崎 満義
理　事　中山 清（葦舟）　岡崎 満義
　　石川 省吾（芳雲）
　　玉井 幸久（燧翁）
　　福原 豊弘（愛山）　古田 光子
執行理事　礒野 衛孝　桜庭 慎吾（在洲）
　　水城 まゆみ　田原 健一
監　事　住田 笛雄
事務局長　田原 健一

総会後、石川岳堂顧問から、「神奈川の漢詩」と題して記念講演が行われ、出席者は感銘を新たにしました。

またその後の懇親会では、ご来賓の千葉県漢詩連盟の菅原有恒様より神奈川県漢詩連盟の発足を祝う詩が披露されたり、全日本漢詩大会のわが県の入賞作品が琴の伴奏とともに朗詠されたり、なごやかな雰囲気のなかで盛会裡に終りました。

詩連設立総会

十月十四日の設立総会の挨拶と重複しますが、感想を書きます。

多士済々の会員の皆様の中から非才が会長の重責を荷うことになり、責任の重さを痛感しております。皆様方のご協力により、漢詩神奈川の流れを清く力強いものとするべく努力してまいる所存ですので、どうぞよろしくお願い申しあげます。

さて設立までの経過に一寸ふれますと、ご案内のとおり、全日本漢詩連盟が発足してからはや三年を経過し、組織拡充ときめ細かな活動のために、各都道府県にも連盟をつくろうという機運が生まれました。相協力して、漢詩文化の振興は勿論、県単位でおこなわれています文化行事にも対応がのぞまれるわけです。関東地域でも、群馬、茨城、東京、千葉とあいついで組織が結成されてまいりました。こうした状勢の中で当県でも、昨年秋より有志の方々と相談して準備に着手し、今年に入りましてからは準備委員が集まり具体的作業を進めて発会となった次第です。

設立総会では、全日本漢詩連盟会長であられ、本会顧問をお願いしております石川岳堂先生のご講演を拝聴できました。先生のご講演にもありましたように、神奈川県は、古都鎌倉や江ノ島、箱根などの名勝も多く、東海道を往来する文人の残した漢詩も少なくありません。地域に根ざした会員相互の交流、研鑽を通じて秀詩が続々生まれてくるものと期待しております。

本連盟の今後の運営につきましては、皆様からお預かりいたしました資金を最大限に活用すべく、選出役員一同努力致す所存ですので、連盟の企画します行事には積極的にご参加下さいますよう御願い申し上げます。

◆ 創刊に寄せて

会長　中山　清

大分昔のことですが、将棋の大山名人のお話を聞く機会がございました。その中で印象に残っておりますことのひとつとして、名人は、趣味に使う道具は許す限り高いものを買いなさいとすすめられました。其れはと申しますと、途中でやめられぬようにということです。「継続は力なり」という言葉もあります。皆様、どうぞ継続して漢詩をエンジョイして下さいますよう御願いして挨拶とさせていただきます。

◆ 連盟設立の賀詞

連盟設立のお祝いの詩が届きました。

平成丙戌十月十四日神奈川県漢詩連盟
發程賀此以賦　　貫道　窪寺　啓

金河鴎鷺結盟筵　金河の鴎鷺　結盟の筵
新起雅聲東海天　新たに雅声起こる　東海の天
富嶽鎌臺又繪島　富嶽　鎌台　又絵の島
幾多名勝入詩篇　幾多の名勝　詩篇に入らん

賀神奈川県漢詩連盟設立　有恒　菅原　満

鎌臺銀杏任風舞　鎌台の銀杏　風に任せて舞う
絵島白鴎追浪翔　絵島の白鴎　波を追って翔ぶ
愛好金河詩藻客　金河の詩藻を愛好するの客の
応開奎運楽洋洋　応に奎運を開くべく　楽しみ洋々たり

（銀杏、白鴎はそれぞれ神奈川県の県樹、県鳥です）

自賀神奈川県漢詩連盟創立　葦舟　中山　清

平成丙戌結新盟　平成丙戌　新盟を結び
交会琢磨培逸情　交会　琢磨　逸情を培う
幸甚相州多景勝　幸甚にも相州　景勝多し
可期嘉詠萃然生　期すべし　嘉詠の萃然として生ずるを

◆ 全日本漢詩大会で会員三名入賞

本年十一月二十三日愛媛県松山市で行われた、全日本漢詩大会並びに愛媛県民総合文化祭漢詩大会の第二部（全国名勝先哲編）で本会会員三名が優秀作品で表彰されました。おめでとうございます。

尚入賞は次の三名ですが、入選は中山清氏、古田光子氏、岡田泰男氏の三氏がおられます。

入賞作品をご披露させて頂きます。

大仏秋月　　礒野　衛孝

秋日喧騒散四隣　秋日の喧騒　四隣に散じ
森嚴松影寂無人　森嚴たる松影　寂として人無し
月明晧晧遍清雅　月明　晧晧として遍ねく清雅
露座孤高一景新　露座　孤高　一景新らし

登伊吹山臨關原　　城田　六郎

靈峰虎踞碧湖東　靈峰　虎踞す　碧湖の東
鞋底丘陵樹鬱惣　鞋底の丘陵　樹鬱惣たり
首鼠両端毛利陣　首鼠　両端　毛利の陣
偃戈始識約盟空　戈を偃せて始めて識る約盟の空しきを

過廉塾跡憶菅茶山　　水城　まゆみ

伊吾聲絶翠楊門　伊吾の聲は絶ゆ　翠楊の門
繞舎鳴渠清浪翻　舎を繞る鳴渠　清浪翻る
一穂青灯解疑處　一穂の青灯　疑を解きし處
獨停黄葉夕陽村　獨り停む黄葉　夕陽の村

また、十一月四日佐賀県多久市、多久教育委員会などの主催による今年度（第九回）全国ふるさと漢詩コンテストにおいても会員水城さんが優秀賞に選ばれました。ご精進が実っているようです。

横濱港舟遊　　水城　まゆみ

潮風颯颯度檣頭　潮風颯颯　檣頭を度る
波上遥望樓又樓　波上遥かに望めば楼又楼
柳岸葦汀桑海變　柳岸葦汀　桑海變じ
飛橋天外跨灣浮　飛橋天外　湾を跨ぎて浮ぶ

◆『岳堂石川忠久先生の記念講演』

横浜中華街やベイスターズの本拠地横浜スタジアムの入口でもあるＪＲ関内駅頭に石川忠久先生御夫妻をお迎えした十月十四日は、今秋第一番の好天気でした。

懸案の神奈川県漢詩連盟も万事滞りなく設立総会が終了し、石川先生の記念講演に移りました。主題は「神奈川県の漢詩」。東海道五十三次の中で九つの宿場を持つ神奈川県は、箱根、鎌倉、江の島などの名勝があり、江戸時代から往来する文人達の漢詩が数多く残されております。

講演は、森春濤「踰函關」から始まり、かの菅茶山をして「一事唯難及斯地芙蓉隔海露全身」と感嘆させた「繪島」に及び、明治時代に至って夏目漱石の「函山雑詠」、新島襄の大磯滞在中の詩などを詳細に解説されました。大正天皇が漢詩に造詣深かった事はまだ一部の方々にしか知られておりませんが、二松学舎の三島中洲先生の薫陶を得られて、数多く漢詩を残されておられますが、その中から「葉山即事」を選ばれました。これは律詩です。当日先生が紹介された八首のうち、五首を以下に掲げます。講演の圧巻は草場船山の「鎌倉」でしょうか。一般の方々を含めた約六〇人の聴衆は、四十分の石川先生の講演に酔いしれました。

礒野　衛孝　記

踰函關　　函関を踰ゆ　　森　春濤

長槍快馬乱雲間　　長槍快馬乱雲の間
知是何侯述職還　　知る是れ何れかの侯ぞ述職して還る
淪落書生無氣焰　　淪落の書生　氣焰無し
雨衫風笠度函關　　雨衫風笠　函關を度る

繪島　絵の島　　菅　茶山

山陽諸島列成隣　　山陽の諸島列して隣を成す
佳境各堪誇北人　　佳境各おの北人に誇るに堪ふ
一事唯難及斯地　　一事唯だ斯の地に及び難し
芙蓉隔海露全身　　芙蓉海を隔てて全身を露はす

函山雑詠　　夏目漱石

函嶺勢崢嶸　　函嶺勢崢嶸たり
登來廿里程　　登り來る廿里の程
雲從鞋底湧　　雲は鞋底より湧き
路自帽頭生　　路は帽頭より生ず
孤驛空邊起　　孤駅空辺に起こり
廢關天際横　　廃関天際に横たはる
停筇時一顧　　筇を停めて時に一顧すれば
蒼靄隔田城　　蒼靄田城を隔つ

葉山即事　　大正天皇

數聲漁笛入風聞　　數聲の漁笛風に入って聞こゆ
海氣清涼絶俗氛　　海氣清涼俗氛を絶つ
檻外遠山如染黛　　檻外の遠山黛を染むるが如く
林間斜日又微曛　　林間の斜日又微かに曛ず
望來曲浦參差樹　　望み来る曲浦参差の樹
吟送長天縹緲雲　　吟じて送る長天縹緲の雲
白髮儒臣依舊健　　白髮の儒臣旧に依りて健かに
侍筵時講古人文　　筵に侍し時に講ず古人の文

鎌倉　　草場　船山

鎌倉開基五百秋　　鎌倉開基してより五百秋
鶴陵廟古只松楸　　鶴陵の廟古りて只だ松楸のみ
夕陽回首蒼溟闊　　夕陽に回首すれば蒼溟闊し
一抹青山是蛭洲　　一抹の青山是れ蛭洲

追記

石川先生は、東京新聞神奈川版に「かながわの漢詩紀行」と題され、平成十六年七月から十八年一月まで都合六十八回に亘って記事を書いておられます。

【漢詩の広がり】（一）

鎌倉中国の名詩を詩う会訪問記

「漢詩を　作る・詩う・舞う」

神奈川県漢詩連盟設立総会懇親会の席上、十一月に松山市で開催される全日本漢詩大会で優秀作品に選ばれた当会員の三人の方々の作品（前掲）を、会員の佐藤敏彦氏が作曲して、会員の根津章伶さんの琴の伴奏で朗詠しました。

佐藤敏彦氏は鎌倉市で「中国の名詩を詩う会」を主宰し、和漢朗詠調で、フルートや琴の演奏者と共に漢詩と短歌・俳句とを併せて朗詠する事を主眼に活動しておられます。

十一月十二日に、鎌倉生涯学習センターのホールで行なわれた「舞と共に鎌倉八景を詩う」のステージを拝見する機会を得ました。

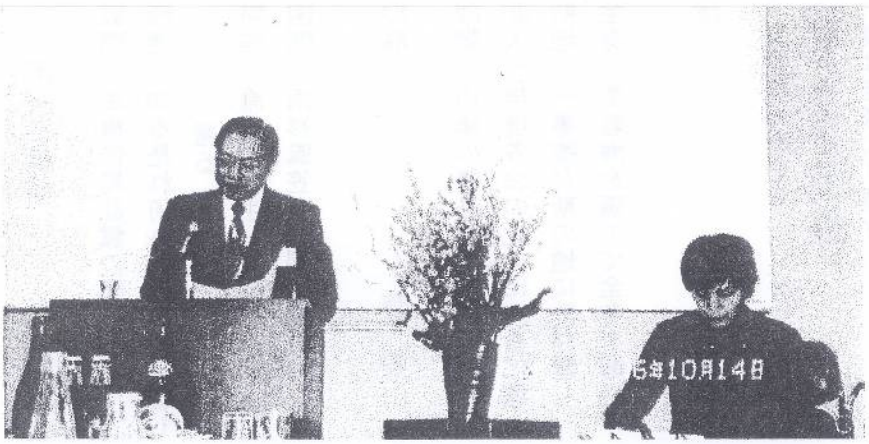
その時の模様は礒野衛孝氏の創作による漢詩を基に、絵画の映像と歴史解説、それに続く鎌倉八景の漢詩と短歌の朗詠に合わせた新作日本舞踊のステージは、真に、作る、詩う、舞うの三位一体の美しく楽しい演出で、漢詩を友とする者に深い感銘と喜びを与えるものでした。

このステージの総監督の礒野氏は、鎌倉鹿鳴会の会長として、鎌倉に因む漢詩の発掘と創作とに情熱を注いで居られます。

古い歴史と風光に恵まれた鎌倉ならばこそこの様な楽しみが出来るのであろうと、感動を抱きつつ会場を後にしました。

桜庭　慎吾　記

神奈川県漢詩連盟設立総会



設立総会懇親会の席上で朗詠される、佐藤敏彦会員（左）と根津章伶会員（右）

◆平成１８年度予算

今年度の事業は左表の予算で執行させて頂きます。

収　　入		支　　出	
会費収入　８０名	１９２千円	通信費	３０千円
寄付金　他	７７千円	印刷コピー費	６０千円
		会報関係費	５０千円
		会場関係	５０千円
		研修会他事業費	５０千円
		予備費	２９千円
計	２６９千円	計	２６９千円

◆寄付の御礼

十月十四日の当連盟の設立総会にあたり、東京都漢詩連盟及び千葉県漢詩連盟より、ご寄付を頂きました。有難うございました。

神奈川県漢詩連盟規約

（名称）
第１条　本会は、神奈川県漢詩連盟と称する。
（目的）
第２条　本会は、神奈川県における漢詩の研究、普及並びに交流を目的とする。
（会員及び会費）
第３条　本会は、本会の目的に賛同する者をもって会員とする。
２　会員は、一般会員と賛助会員の２種類とし、一般会員は入会手続きをとり会費を納めた個人とし、賛助会員は入会手続きをとり賛助会費を納めた個人及び法人とする。
３　会費は、一般会員年額２，０００円とし、賛助会員一口１０，０００円とし年間一口以上とする。
（事業）
第４条　本会は、その目的を達成する為、次の事業を行う。
（１）講演会、研修会。
（２）機関紙の発行などによる漢詩詩作の研鑽、発表。
（３）会員間の相互の交流。
（４）その他当連盟にふさわしい事業。
（役員）
第５条　本会を運営する為、次の役員を置く。
会長　１名
副会長　若干名
理事（執行役理事を含む）　若干名
事務局長　１名
監事　１名
２　その他必要に応じ、会長の委嘱により顧問及び相談役を置くことができる。
（役員の選任）
第６条　役員の選任は、次のとおりとする。
（１）会長は、理事の互選による。
（２）理事は、会長が推薦し、総会において承認をうける。
（３）副会長は、理事の中から会長が指名する。
（４）執行役理事は、会長が理事の中から指名し、総会で選任する。
（５）監事は、理事会の承認を経て会長が推薦し、総会で選任する。
（６）事務局長は、会長が委嘱する。
（役員の任務）
第７条　役員の任務は、次のとおりとする。
（１）会長は、会を代表し、会務を統括する。
（２）副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、会長の職務を代行する。副会長が複数の場合は、あらかじめ理事会において定めた順位に従って会長代行に就く。
（３）理事は、理事会を構成し、予算及び決算等総会に諮る事項を審議する。
（４）執行役理事は、正副会長と共に執行役理事会を構成し、会務を運営執行する。
（５）事務局長は、会の事務を行う。
（６）監事は、会計を監査する。
（役員の任期）
第８条　役員の任期は２年とし、再任を妨げない。
また、欠員補充として選任された役員の任期は、前任者の残余期間とする。
（総会及び理事会）
第９条　総会は、年１回会長が招集し、理事、監事の選任、事業計画、事業報告、予算、決算の承認を行う。
２　理事会は、必要に応じて会長が招集する。
３　総会、理事会の議長は、会長が務める。
４　各議会で議決が必要な場合は、各々出席者の過半数の賛成により決する。
（会計年度）
第１０条　本会の会計年度は、４月１日から翌年３月３１日までとする。
２　会の運営費用に充てる為、寄付金の申し出がある場合は、これを受ける。
３　会の運営上、行事費用が必要な場合には、その都度これを徴収する。
（事務局）
第１１条　本会の事務局は、横浜市旭区中沢３丁目３９―９　田原健一方
神奈川県漢詩連盟事務局に置く。
（その他）
第１２条　この規約に定めのない事項については、理事会において協議して定める。
付則
１　この規約は、平成１８年１０月１４日から施行する。
２　第６条の定めにかかわらず、設立第１期の会長は、発起人会で選出する。

“来年のカレンダーに予定をご記入ください。”

◆今後の事業予定

漢詩作りは、お友達が互いに切磋琢磨することで楽しさが倍増します。神奈川県漢詩連盟では研修会、初心者入門講座、吟行会の行事を計画しています。仲間作りに奮ってご参加ください。

1. **研修会**　事前に詩句一句をご投稿ねがい、集まった詩稿を参加者にあらかじめお配りし、当日参加者全員で交互に推奨・講評を含めご感想を述べ合う形での研修です。参加人数が多い場合は十名程度にグループ化して実施することも検討中です。ご参加をお待ちしています。

時期　平成１９年１月２４日（水）午後１時～４時

場所　横浜市開港記念会館　２階９号室（TEL　０４５－２０１－０７０８）

（ＪＲ関内駅海側徒歩１０分　みなとみらい線日本大通り駅徒歩１分）

参加申し込み及び詩作提出期限　平成１９年１月１０日（日）

同封の投稿用紙にて詩の投稿と併せ、封書にて事務局あて申し込む。

（〒241-0814　横浜市旭区中沢3-39-9　田原健一方）

2. **初心者入門講座**　期間3ヵ月間、月2回　累計6回程度の初心者向けの入門講座を開設します。鑑賞はしてきたけれど作った経験は無いという方、この際を好機と捉え、漢詩実作に挑戦してみませんか。

時期　平成１９年３～５月　隔週ごと月２回　第１及び第３火曜日　午後１時～３時

参加申し込み期限　平成１９年１月３１日（水）

参加希望者は葉書にて事務局あて申し込む。

（〒241-0814　横浜市旭区中沢3-39-9　田原健一方）

講師　中山葦舟会長他　　費用　教材等の実費負担あり

場所　未定（横浜市中心部の予定）追って申込者にご連絡します。

3. **吟行会**

時期　平成１９年４月３日（火）

場所　金沢文庫　会費３千円　午前１０時３０分　京浜急行本線　金沢文庫駅改札口に集合、金沢文庫を見学し称名寺を散策します。その後、近くで昼食、食後ご歓談のあと、ご希望の方には中山会長ほか理事数名が詩作の助言をします。

申し込み期限　平成１９年２月２８日（水）事務局あて葉書、ＦＡＸ等にて申し込む。

（〒241-0814　横浜市旭区中沢3-39-9　田原健一方　ＦＡＸ　０４５-３６１-２０３３）

4. 平成１９年度総会。講演会。懇親会。
平成１９年５月下旬の予定
場所 未定

5. 次回会報発行　来年６月末予定

◆会報への投稿のお願い

会員の方々の会報への自詠の漢詩をご披露ください。会長中山清が選者となり、優秀作品を掲載します。（但し一人二首まで）掲載時期は随時です。事務局まで原稿をお送りください。

又、会員の所属団体のご紹介や、ご自身友人の著書のご披露、或いは漢詩にまつわるお話等何でも結構です。原稿をお寄せください。

◆編集後記

設立からはや二ヶ月、出来るだけ早く皆様に今後の活動予定をお知らせしたいと気は焦りながら、やっと会報をお届けする事で、まずまず第一歩を踏み出したかなと思っております。ぜひ、研修会か吟行会か、新人研修講座か、この三行事のうち一つは必ず参加してください。勿論、三つともご出席、大歓迎です。

来年のカレンダーに、忘れないよう書き入れてください。

猪突猛進でいきましょう。どうぞ良いお年を！

（田原）